

# 教育

関西学院大学をはじめとする全国10大学の合同ゼミ合宿が9月18日から2日間、兵庫県三田市の関西学院千刈キャンプで開かれた。地域も校風も異なる大学の学生同士でチームを作り、グループワークを通じて、協調性や課題解決の能力を養ってもらおうのが狙い。約70人が「ポピュリズムとは何か」をテーマに、教員や学生同士で活発に意見を交わした。



7つのグループに分かれて意見交換が行われた

## 全国10大学による合同ゼミ合宿開催

関西学院のほか合同ゼミに参加したのは、北海道、北海学園、慶應義塾、立正、聖学院、東海、立教、新潟国際情報、愛知県立の各大学。

合同ゼミは主にEJやヨーロッパ

「ポピュリズムとは何か」をテーマに

グループワークの大切さ実感

パ諸国の政治・経済を研究する教員のネットワーク組織が3年前から企画している。今年のテーマは民主主義国家の政治を揺るがしているポピュリズムをとりあげ、選挙の立候補者の視点から、有権者から支持を獲得するためにどのような取り組みが必要かを考えさせ

かりのなか、限られた時間で課題を見つけたうえで、解決策を導き出すという普段の大学生活ではなかなか得られない機会を学生に提供できたと思う。グループワークの大切さを実感してもらえたら」と話していた。

# まず一步を踏み出すことが大切

## 大阪樟蔭女子大学 白井文さんが特別公開講演会

大阪樟蔭女子大学(東大阪市)が2030年に向けて打ち出した大学のブランドデザイン「Beautiful」を記念し、兵庫県の元尼崎市長の白井文さんによる特別公開講演会「自分らしく美しく生きる」が11月11日、同大学で開かれた。



「自分らしく美しく生きる」をテーマに語る白井さん

## 頑張る女性にエール 自分に自信をもって

白井さんは全日空の客室乗務員や尼崎市議などを経て平成14年、42歳の時に尼崎市長に初当選。当時は全国最年少の女性市長として注目を集めた。2期8年間市長を務め、現在は大阪府男女共同参画推進財団業務執行理事やグンゼ社外取締役として活動する。

講演で白井さんは自身の多彩な経歴に触れながら「どれも人から頼まれて行ったが、それが新しい扉を開くチャン

スになった。物事を自分で決めるだけでなく、他の人からの依頼を断らないことも重要」と指摘。このなかで市長2期目に同市内で起きたJR福知山線脱線事故に言及した。地震などの自然災害以外で初めて災害対策本部を設置したケースで対応マニュアルもなく、「市長が逃れることはできない」と自ら陣頭指揮を執ったという。

事故発生から35時間後、初めて現場に赴き、不眠不休で救助に取り組む消防隊員の姿を目の当たりに。県外からの応援体制が整いつつあったため、「現場の救助体制はもはや限界。いったん引き上げさせ、全員に休養を取らせるべき」と判断し一時撤退の指示を出したが、現場本部長を務める消防局長は「ここが私たちの現場」と譲らず、強い使命感に胸を打たれたというエピソードも明かした。

そのうえで、白井さんは「日頃から頭で考える」「多様な人と触れ合う」「人の良いところをほめる」「コミュニケーション能力を鍛える」という4点を挙げ、「この能力を鍛えれば、困難な状況に直面した時に芽が出る」と強調した。

さらには「美 Beautiful」の理念になぞらえ、「私自身、迷いながらも市民のみならず同じ目標で問題意識を共有できたことが良かった。自分がどれだけ自信を持っていくかを迷う前にまず一步踏み出すことが大切。常に頑張っている女性にエールを送りたい」と締めくくった。

## 「私が行ってみたい冬の沖縄旅行」

### 大阪学院大生に最優秀賞

今夏、沖縄ツーリスト大阪支店が関西の大学に在籍する学生を対象に「私が行ってみたい冬の沖縄旅行」企画を公募し、最優秀賞に大阪学院大学経営学部ホスピタリティ経営学科の学生12人による企画が選ばれ、このほど受賞企画を一部盛り込んだツアーが商品化された。



学生のアイデアは、透明度

## 防災キッズ育成サポートプロジェクト

### 「次世代につなぐ 防災&減災フォーラム」参加者募集

南海トラフ地震など大災害の発生に備え、日頃からの防災対策は欠かせない。いざというときに何をすればいいのか、阪神・淡路大震災や東日本大震災の記憶をいかに次世代に伝え、生かしていくべきなのか。産経新聞社では、積水ハウス(大阪ガスと実行委員会を組織)、今年9月

から「防災キッズ育成サポートプロジェクト」企画を展開。

12月17日(日)には、未来を担う子供たちが非常時に「生きる力」を発揮し、災害に向き合える力を育むことを目的に、防災教育の在り方を考えるフォーラムを開催する。